



特集 ……P1～P2

## 令和2年7月豪雨 における 熊本大学病院の活動

新任役職紹介 ……P2

HOSPITAL TOPICS ……P3

- \*熊本市民病院への「出向者慰労の会」を行いました
- \*「ワシントン外語学院」によるオンライン授業「英語であそぼう」

知っ得! 納得! Q&A ……P4

## 心のセルフケア ～コロナ禍での不安を乗り越える～

診療科・部門紹介 ……P5

### \*NICU (新生児集中治療室)

### \*感染制御部

看護部だより ……P6

## 感染管理認定看護師 の活動

総合案内 ……裏表紙



2020年 秋号

熊本大学病院

- 【理念】** 本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。
- 【方針】** ・高度な医療安全管理体制による安全安心で質の高い医療サービスの提供  
・患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践  
・先進医療の開発・推進と優れた医療人の育成  
・地域社会に貢献できる医療・防災の拠点形成
- 【患者さんの権利】** ・個人の尊厳と意向が尊重されます。  
・良質な医療を公平に受ける権利があります。  
・十分な説明と情報提供を受ける権利があります。  
・自分の意思で医療を選ぶことができます。  
・プライバシーや個人情報が保護されます。
- 【患者さんの責務】** ・自分の健康状態について正確に伝えてください。  
・治療に積極的に参画してください。  
・社会のルール、本院の規則を守ってください。  
・迷惑行為を行わないでください。  
・医療費を滞滞なく支払ってください。



### 病院敷地内全面禁煙のお知らせ

皆様のご理解とご協力をお願いします。

熊本大学病院の建物内、敷地内(含む中庭、駐車場)および病院周辺の道路は全面禁煙です。喫煙を確認した場合は、来院者には退去勧告、入院患者さまには退院や転院を勧告いたします。禁煙へのご理解とご協力をお願いいたします。

### ご寄附のお願い

熊本大学病院では、若手医師をはじめとした医療人の教育・学術研究の支援並びに医療機器等の整備、大学病院の管理運営等に資するため、企業や個人の皆様の篤志に基づいて寄附金を受け入れております。またご寄附をいただいた場合、税制上の優遇措置を受けることができます。詳細は熊本大学病院ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/kifu.html>



スマホ・携帯電話の方はこちらから

【お問合せ】  
熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム研究支援担当 TEL096-373-5658

# 令和2年7月豪雨における 熊本大学病院の活動

【監修】 熊本大学病院 災害医療教育研究センター 笠岡 俊志 センター長

## 熊本県を襲った 今までに類を見ない豪雨

令和2年7月豪雨により、熊本県内で甚大な被害が発生しました。死亡者数65名、行方不明者数2名(R2.8.26時点)、住家被害は全半壊3,000棟以上、床上浸水3,400棟以上(R2.8.25時点)に及び、628世帯1,175人(R2.8.20時点)が避難生活を強いられました。

※ 熊本県HP令和2年7月豪雨資料「令和2年7月豪雨に係る災害対策本部会議資料(第28回)及び 有識者会議資料」から抜粋  
<https://www.pref.kumamoto.jp>

被害に遭われた方のご冥福をお祈りすると共に被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

## 豪雨災害での 熊本大学病院が行った支援活動

7月4日に災害医療教育研究センターのスタッフを熊本県庁の災害対策本部に派遣し、保健医療調整本部の活動に参加しました。県庁の本部では熊本県災害医療コーディネーターとして医療機関の被災状況を調査しつつ救護班の派遣や医療物資の補給など様々なニーズに対応する調整を担いました。熊本県からの要請で災害派遣医療チーム(DMAT)を7月5日～7日まで八代市に1チーム(医師1名、看護師2名、放射線技師1名)、7月14日～16日まで人吉市に1チーム(医師1名、看護師2名、検査技師1名)を派遣しました。八代に派遣されたチームは熊本労災病院内に設置された熊本

県南保健医療調整本部の本部活動に参加しました。一方で人吉に派遣されたチームは人吉球磨医療圏保健医療調整本部の指示で人吉医療センターの救急外来の診療をサポートしました。人吉医療センターの診療機能をサポートするため、救急外来への支援として救急・総合診療部および消化器外科から計3名の医師が派遣され、さらに周産期医療の支援として産科婦人科の医師2名が派遣されました。また、熊本県看護協会からの要請で被災地の病院や避難所に計6名の看護師が派遣されるとともに、避難所の感染対策をサポートするため、感染制御部の看護師2名が被災地の避難所に派遣されました。その他にも糖尿病、神経疾患、循環器疾患などの専門診療に関して電話相談窓口の開設などの情報提供のサポートも行われました。



【写真】 災害派遣医療チーム(DMAT)本部(熊本労災病院)



平成28年の熊本地震から4年が経過した後に発生した豪雨災害ですが、熊本大学病院のDMATが初めてチームとして被災地に派遣されるなど、当院の支援活動は発災から迅速な初動が行われたと考えています。まさかの時に迅速に対応できるよう、日常的な備えの重要性が再認識されました。被災地は未だ復旧・復興の途上であり、今後も支援の必要性について注視していきたいと考えています。

←【写真】災害対応を行う会議の様子（熊本県庁）

## ◀ 新任役職者紹介



消化器内科 教授

田中靖人

令和2年6月1日付けで、消化器内科学 教授・光学医療診療部 部長を拝命しました田中靖人です。

私は愛知県出身で、1991年名古屋市立大学を卒業しました。同大学で2年間研修後、名古屋第二赤十字病院で救急医療の重要性を学ぶと同時に、消化器病・肝臓専門医を取得しました。その後大学院を経て、アメリカ国立衛生研究所(NIH)に留学して肝炎・肝臓病の研究を行い、帰国後も消化器内科医として臨床と研究を続けて参りました。

当教室は消化器内科すべての領域をカバーしていますが、特にがん診療、内

視鏡診療、肝炎・肝がん診療を中心に、高度先進医療の推進と臨床治験・医師主導臨床試験を積極的に実施しています。光学医療診療部では「先端医療内視鏡診断治療システム」と総称される、拡大内視鏡、超音波内視鏡、小腸内視鏡をはじめとした最先端の内視鏡による診断をシステム化し、高度な内視鏡的治療を積極的に行っております。私たちはこれからも患者さんの立場に立ち、お一人お一人と向き合い、コミュニケーションをとりながら最善の医療を提供するよう努力して参ります。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。



脳神経内科 教授

植田光晴

2020年4月に脳神経内科教授に就任致しました植田光晴と申します。

私は山口県下関市の出身で、熊本大学を卒業後に脳神経内科を専攻し、神経疾患を患われている方々の診療に携わってきました。特にアミロイドーシスという病気の研究および診療を専門としています。

現在、熊本大学病院アミロイドーシス診療センター長を兼任しており、国際的な研究、診療の拠点として活動しています。また、遺伝性の難病で診断がつかずに悩んでいる患者様に対する国立研究

開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の取り組みである「未診断疾患イニシアチブ(IRUD:アイラッド)」の拠点病院としても活動しています。

脳神経内科では、頻度の高い病気(脳卒中、頭痛、認知症、てんかん、しびれ、パーキンソン病など)から稀な神経難病まで幅広い診療を行っています。

県内外の医療機関と連携して診療を行い、神経疾患の克服に向けて活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## 熊本市民病院への「出向者慰労の会」を行いました



【写真】 スタッフに労いの言葉を述べる谷原病院長

2020年6月1日(月)、熊本大学病院において熊本市民病院への「出向者慰労の会」が行われました。コロナ禍による人員不足を補うための出向です。

谷原病院長より労いの言葉が述べられた後、代表者へ感謝状が贈呈されました。

また、複数の企業・団体様、個人の方から当院へ医療物資のご寄付や医療従事者に対する応援の品々を多数いただいております。皆様のご厚意に対しまして、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



【写真】 医療従事者に対する応援の品々

## 「ワシントン外語学院」によるオンライン授業「英語であそぼう」



【写真】 オンライン授業「英語であそぼう」の様子①

コロナの影響で熊大病院の院内学級の教室を一時閉鎖し、オンラインでの授業を続けていました。

そのような中で、「ワシントン外語学院」様のご

厚意により、「英語であそぼう」と題したオンライン授業が5月12日から週3回行われることとなりました。3歳から15歳の子どもたちが参加し、治療や検査以外の時間に楽しく英語を学んでいます。

今回の体験を通じて子供たちが「英語が好きになってくれれば」という気持ちでスタッフ一同見守っております。



【写真】 オンライン授業「英語であそぼう」の様子②

### ボランティア活動員募集

●活動時間

月曜日～金曜日(休日を除く)8:30～17:00  
※回数、時間をご相談に応じます。  
(週1回、2～3時間の活動でも可能です。)

●ボランティア内容

外来でのお世話、受診手続きの説明等、診療科等への案内、車椅子の手配と介助、幼児の世話、通訳、手話通訳、視聴覚障害者への受診付添、自動再来受付機等の操作案内など



スマホ・携帯電話の  
方はこちらから

【お問合せ】 熊本大学病院 医療サービス課外来担当 TEL096-373-5557

(<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/volunteer.html>)

## 「心のセルフケア ～コロナ禍での不安を乗り切る～」

今まで経験したことのない世界中に蔓延する新型コロナウイルス感染症の拡大に直面して、不安や恐怖を感じている方がほとんどだと思います。日常生活だけでなく仕事、学業、収入の心配や先行きへの不安から強いストレスを感じていることでしょう。また、対人交流や活動などのストレス発散方法も少なくなり、心のセルフケアがとても大事になってきています。

### 心のセルフケアには、

#### Q どのようなものがありますか?

##### 1 健康的な生活スタイルとリズムを維持する

休校や外出自粛、在宅勤務などでいままでの生活スタイルと異なったリズムで生活されている方も多いと思います。睡眠や食事のリズムを一定にして、規則正しい新しいルーティンを保つことが大切です。自宅のできる運動を取り入れることも有用です。

##### 2 信頼できる情報を得る

情報を過剰に接することで恐怖感や不安が増大するため、厚生労働省や自治体などの信頼できる情報を時間帯を決めて入手することが重要です。

##### 3 他者とのつながりを保つ

電話やソーシャルメディア、オンラインのツールを活用しましょう。支えになる方とのやり取りはストレス軽減になります。

##### 4 ストレス対処法を身につける

リラックスできる時間を作ることや自分の楽しめる活動をするなどが有効です。呼吸法や漸進性筋弛緩法などのリラクゼーション法もあります。

##### 5 相談する

厚生労働省のサイトに新型コロナウイルス感染症関連の心の不安を相談できる「こころの相談窓口」があります。ここではSNS(チャット)や電話などで心の不安を相談できます。(QRコードリンク先:こころの耳 働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト)



[https://kokoro.mhlw.go.jp/etc/coronavirus\\_info/#head-3](https://kokoro.mhlw.go.jp/etc/coronavirus_info/#head-3)

### 不安にならないように避けた方が

#### Q いいことはありますか?

##### 1 情報過多を避ける

ニュースやソーシャルメディア等に接する時間を制限することが大切です。例えば1日30分と決め、いつも同じ情報ツール・番組を利用すると情報の重複を避けることが可能です。不必要な情報を避けやすくなります。

##### 2 アルコールの摂取時間や摂取量の増加を避ける

過度な依存状態にならないように気を付けることが大事です。飲酒している一時は不安が軽減しますが、依存状態になると、飲酒していないときの不安が強まり、身体的にも具合が悪くなります。

##### 3 孤独を避ける

コロナ禍では生活リズムが狂い、引きこもりがちになってしまいますが、家族や親しい友人との交流は定期的に行いましょう。

### どのような場合に、

#### Q 病院に行くべきですか?

##### 1 眠れないとき

連日、不安感から眠れない日が続くと、孤独感や気分落ち込みも強くなってきます。また、飲酒に頼る癖もつきやすくなります。心療内科・精神科・メンタルクリニックを受診してみましょう。

##### 2 食事がとれないとき

不安感から食事がのどを通らず、受け付けなくなり、体重が減るようなことがでてくると、受診したほうがよいサインです。

##### 3 仕事や学業に支障がでたとき

眠れなくなる、食事がとれなくなるなどの症状が重なると、うつ状態となり、仕事や学業に支障がでてきます。そうなる前に、早めに受診しましょう。

## NICU(新生児集中治療室)



NICUではGCU(新生児治療回復室)とともに、365日24時間体制で生まれたばかりの赤ちゃんに対する救急医療を行っています。年間約250人の入院児は体重400gの小さな赤ちゃんから重症仮死、先天疾患、外科疾患まで様々です。

大人のICUと同様に人工呼吸管理(年間約130

例)、低体温療法(年間約10例)、血液浄化療法等の高度医療を提供しています。また、他の診療科や中央診療部門の協力を得て、多様な新生児疾患にも対応しています。生まれたばかりの赤ちゃんは最も弱く、それだけに手がかかり、時には医療者の忍耐が必要なこともあります。しかし、赤ちゃんは親や親族はもとより、周りの人まで温かく優しい気持ちにさせてくれる、その存在はかけがえのないものです。

NICUとGCUの医師、看護師、保育士、薬剤師、クラークは各々の専門性を生かして、赤ちゃんに優しい、高度で安全な、家族に寄り添った医療やケアの提供を心掛けています。赤ちゃんがより良い未来を生きていけるように、これからも取り組んでいきます。

## 感染制御部



感染制御部は2016年に前身の感染対策室から組織を変えて発足しました。感染制御部の2つの大きな業務として、感染制御と感染症診療支援というものがあります。感染制御では看護師を中心とした多職種でインフェクションコントロールチーム(ICT)を作り活動しています。ICTの最

大の目標は患者様とその家族・職員を様々な感染症から守ることであり、そのために耐性菌発生時の対応・環境チェック、職員の教育等の業務を行っています。もう一つの感染症診療支援は、薬剤師を中心に抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を設置し、治療が難航している症例のチェックやコンサルト等の業務を行っています。

最近ではこのような感染対策の活動は病院内だけでなく、周囲の病院との連携による地域での感染対策や災害時の感染対策活動等に拡大しています。新型コロナウイルス感染症対策など新たな難題にも直面していますが、今後も病院そして地域のための感染対策を実践して参ります。



## 感染管理認定看護師の活動

### 感染管理認定看護師とは

感染管理認定看護師は感染制御部に所属し、患者様やご家族、病院職員など病院内の全ての人を感染から守るために、医療関連感染の予防と改善活動を行う役割を担っています。病院内での感染症発生状況を把握し、これらが広がらないように、病院内すべての職員が根拠に基づいた感染防止策を実践できるように支援しています。また、安全な医療環境が提供されるように、病院設備の調整、医療廃棄物の分別や取り扱いを適切に行うための管理も行っています。

現在は、新型コロナウイルス感染症の感染対策に力を入れています。感染対策には、「ウイルスを院内に持ち込まない、拡げない」ことが一番重要です。関連部門と連携を取りながら、職員には毎日の健康観察、マスク着用、手指消毒実施の徹底を周知しています。また職員以外の入館される皆様全員にはマスク着用とサーモセンサーでの検温にご協力頂いています。さらに熊本県内での感染の拡がりに伴い、入院患者様へのご面会についても原則禁止の措置を取らせて頂いています（※9月17日現在）。患者様を感染から守るために、今後ともご協力をよろしくお願い致します。

### 熊本県内での活動

2012年に設立された熊本県感染管理ネットワークを通して、日頃から熊本県や地域の医療機関と連携し、感染対策について情報共有を行っています。2016年の熊本地震の際には、熊本県内に設置された避難所への巡回支援を、令和2年7月豪雨でも人吉市の避難所への巡回支援を行いました。避難所は多くの方々が

共同生活を送られるため、感染が拡大しやすい環境です。そのため感染予防策の提案をさせていただいています。また、新型コロナウイルス感染対策のクラスターが発生した施設へも、熊本県と連携しながら感染対策の支援を行っています。

感染対策は地域全体で考える時代です。私たちは、病院内での活動とともに、今後も地域の感染対策にも貢献していきます。



【写真】院外での感染対策活動の様子

### 熊大病院での感染予防

熊本大学病院職員としての**自覚**を持ち

<p><b>密閉</b></p> <p>・カンファレンスやミーティング時は換気をする</p> <p>換気をするモン #OpenWindow</p>	<p><b>密集</b></p> <p>・最小限の人数で集まる ・スペースを設ける</p> <p>くっつかないモン #KeepDistance</p>
<p><b>4つの密を避けた行動を！</b></p>	
<p><b>密接</b></p> <p>・会話時はマスクを装着する</p> <p>会話をしながらいい明日を</p>	<p><b>秘密</b></p> <p>・体調不良時は報告する ・体調不良のまま勤務しない</p>

©2010熊本県くまモン 2020.7 感染制御部

熊本大学病院では、4つの密「密閉・密集・密接・秘密」を避けた行動を心がけています。

**病院職員としての自覚を持って、業務に励みます！**



